

令和7年9月 定例教育委員会 会議録

- **開催日時** 令和7年9月26日(金) 午後3時00分 から 午後4時00分
- **開催場所** 長井市役所 3階 防災研修室2・3
- **出席者** 委員 土屋正人教育長、平田史彦教育長職務代理者、小野卓也委員、鈴木奈美委員、長沼真知子委員
事務局 竹田洋教育次長、高世潤教育総務課長兼給食共同調理場長、黒澤美紀学校教育課長、風間陽一地域づくり推進課補佐兼生涯学習推進室長、渋谷和志観光文化交流課長、菊地千賀健康スポーツ課長、長澤春香教育総務係長

○ 会議次第

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 日程報告

i 教育長及び各課日程報告

ii その他事務報告

日程第3 付議事項

①議案第11号 財産の取得について

日程第4 協議・報告事項

①指定校変更・区域外就学対象者一覧について

②令和7年度長井市一般会計補正予算(案)(学校教育課分)について

③新任ALT及び配置校について

④令和7年度長井市一般会計補正予算(案)(観光文化交流課分)について

⑤債務負担行為予定書(案)(観光文化交流課分)について

日程第5 その他

1 次回の定例教育委員会の開催について

日時(案): 令和7年10月21日(火) 午後3時00分

会場(案): 議会委員会室

○ 会議の概要

■日程第1 会議録署名委員の指名

教育長は平田史彦教育長職務代理者を指名し、出席委員から承認された。

■日程第2 日程報告 i 教育長及び各課日程報告

教育長及び課長等による日程等の報告後、教育長は質問、意見を求めたが、質問等はなかった。

■日程第2 日程報告 ii その他事務報告

教育長は各課長等に報告すべき事項があるか尋ねたが、各課長等からの発言は無かった。

■日程第3 付議事項 ①議案第11号 財産の取得について

学校教育課長による説明後、教育長は質問、意見を求めたが、質問等が無く、教育長が承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

■日程第4 協議・報告事項 ①指定校変更・区域外就学対象者一覧について

学校教育課長による説明後、教育長は質問、意見を求めたが、質問等が無く、教育長が承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

■日程第4 協議・報告事項 ②令和7年度長井市一般会計補正予算(案)(学校教育課分)について

学校教育課長による説明後、教育長は質問、意見を求めたが、質問等が無く、教育長が承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

■日程第4 協議・報告事項 ③新任ALT及び配置校について

学校教育課長による説明後、教育長は質問、意見を求めたが、質問等が無く、教育長が承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

■日程第4 協議・報告事項 ④令和7年度長井市一般会計補正予算(案)(観光文化交流課分)について

観光文化交流課長による説明後、教育長は質問、意見を求めたが、質問等が無く、教育長が承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

■日程第4 協議・報告事項 ⑤債務負担行為予定書(案)(観光文化交流課分)について

観光文化交流課長による説明後、教育長は質問、意見を求めた。

委員 人件費等、様々値上がりしていると思うが、前回と比較して指定管理料は上げているのでしょうか。

観光文化交流課長 最低賃金が上がったため人件費算出額も上がっていますし、光熱水費も上がっています。業務委託料等の関連会社に対する委託料も上がっておりますので、全体増で見込んでいます。

委員 この金額で受けていただけるということによろしいでしょうか。

観光文化交流課長 現在指定管理を受けていただいている業者さんから徴した見積りと市で積算した金額とは乖離はありましたが、考慮した上で積算し設定したところです。今後、この金額の範囲内で仕様書に基づいて募集をかけますが、手を挙げていただける企業はあると考えています。

その他に質問等はなく、教育長が承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

■日程第5 その他 1 第1回総合教育会議の開催について

教育次長が会議内容について説明を行った。

教育長 スクール・コミュニティは地域づくりなので、各課で自分ごととして考えていただくことが一番大切です。各課でコンセプトに従って、今自分の課ではどのようなことが課題なのか、どういう方向性に持っていくのか、ということをおみんなで考えたいと思います。委員の皆さんには自由にお話していただき、刺激を与えていただけるとありがたいです。

委員 ハード面の話をすると、選択肢は多くないと思います。夢を語るのは良いですが、実現は無理だよね、という議論になると虚しさを感じます。ある程度現実的なところから少しはみ出るくらいのところまで話ができれば良いのかと思いますが、当日はA案がいいのか、B案がいいのか、というような話し合いになるのでしょうか。

教育次長 AかBかという議論ではなく、また、すべての考えを否定するのではなく、安心して多様な意見が出せるグループワークとして行いたいと思っています。ただ、荒唐無稽な話にはならないように、教育長の基調提案の際に、課題や小中学校将来構想検討委員会から提言をいただいた「こういう学校を作っていきたい」という共通認識を共有し、方向付けはいただく予定です。

委員 現在、一部の方が米沢興譲館高校の中高一貫校化と併せて米沢東高校との合併、旧米沢市街への移転を10年後を目途に進めようとしています。一部は意欲的なようですが、一部からは無理だ、という声が多いようです。この議論は、「子どもがほとんどいなくなる」という事態を想定していない、今のままの子ども数があることが前提となっていることが問題だと思っています。子ども数が急激に減り、今の5～6割の人数になったときにどういう学校の在り方が良いのかを考えなければなりません。小中学校将来構想検討委員会においても、こんなに子ども数が減ることは想定されておらず、委員もそこをあまり念頭に置かずに発言していたと思います。視点として非常に重要なところだと思います。

教育長 その通りだと思います。長井市は、小さな拠点として、小学校は統合しない方針を定めていますが、是非を含めて課題は出てくると思います。市のまちづくり、という視点もありますので、この大きな方針は外せないと思います。

委員 各学校で個性が色々あるので、今後も活かして、大事にしていけたらと思います。教職員を十分に配置できていない問題もあるので、そこも考慮しなければならないと思います。子ども数が減っていることは、これから小学生に上がる子どもを持つ親たちは非常に心配していて、このまま小学校があるのだろうか、と話題になることもあります。それらを含めて考えても、どのような方針がいいか、個人的には答えが出ていない状況です。

委員 地域を維持していくために小学校は統合しない、という考えは分かりますが、中学校はその位置にいなくてもいいのではないかと思います。中学校は統合した方が、子どもたちが学力や運動面等で切磋琢磨できますし、部活動地域移行

を進めている中で教員や各団体の負担も少なくできるのではないのでしょうか。また、統合すれば教員の数も少なくできると思います。小学校は、学校を軸として地域活性を考えたうえで、子どもの数が減っていくことを考慮すれば、長井小学校を解体するのが良いのではないかと思います。ドーナツのように周辺に学校があると良いのではないのでしょうか。

委員 理想の話をするアイディアは次々に出てくるとは思います、実現できない一番の要因はお金です。市民の皆さんに認めていただける財源がどのくらいあるのか。学校が大事、施設も大事、ということは市民も分かっていますが、別なものを削って捻出するとなるとすぐに納得できないこともあるかと思えます。どのくらいの財源を見越して話ができるのか、ということを示していただきたいです。複合化も、あれもこれも一緒に、となると、本当にそのような学校はできるのか、と心配になります。また、「子どもまんなか」「子ども中心」と良く言いますが、本当に子どものことを考えているのか、といつも思います。まちづくりの方向性は市長からお聞きして十分分かってはいますが、それは子どもがある程度の人数がいることが前提だと思います。少ない人数になった子どもたちが、まちづくりのためにその学校に居続けることが好ましいのか、と考えたときに、私はそうは思いません。子どもたちが1日8時間近く学校にいる中で、ほとんどが授業の時間です。関わるのは同級生とその頃にはたった一人の先生、複合化したら機会は増えるのかもしれませんがたまに地域の方です。子どもが一番影響を受け合うのは同級生です。多様な心は同級生との関わりで生まれると思っています。上級生は下級生に寛容になりますし、下級生から見て上級生は憧れですが、葛藤があるのは同級生、初めてぶつかるのも同級生です。そこで「こんな意見もあるのか」、「こう考える人もいるのだ」ということを学びます。私は、同級生がいないと教育上好ましくないと思っています。伊佐沢小の例もありますので、中学校からでも間に合うのかもしれませんが、小さいうちからそのような環境で育つ方が好ましいと私は思います。最低同級生でバスケットボールができるくらい、10人くらいはいてほしい。他の学年と一緒にするのではなく、同級生だけでできることが重要です。

教育長 これからの学びは、一定規模、という発想そのものを変えなければならないのかもしれませんが。スポーツは別ですが、交流の相手は地球の裏側にもいます。AIが想像した未来の学びは、子どもたちはそれぞれPCに向かって勉強したり画面の向こうの人と話をしたり、先生はあまりいませんでした。今の学校を維持する、という発想自体を変えていかなければならないのかもしれませんが。今回は財源と長井市としての地域づくりの方向性の桁の中で話をしていくことになると思います。

委員 今の保護者は10年後保護者ではなくなります。どうすればこれから生まれる子どもが通いたい学校になるか、これからの保護者の意見を大事にしてほしいと思います。

教育長 将来構想検討委員会に幼稚園の関係者に入っていたいたのはそのような意図があります。自分の子どもが10年後に入る学校、というイメージをもって

もらいたい。来年度からの市民検討会議でそのような方からの意見をお聞きしたいと思います。

委員 「集まる」ということが大事だと思います。集まって一緒に過ごす緊張感もありますが、安心感もあります。家庭と違う一つの社会に触れることは、その先の人生においても大事な経験です。リモートではなく、集まらなければなりません。一定数集めるためには、どんどん遠くなり通学に時間がかかる、という問題がありますが、やむを得ないと思います。どこまで小規模で頑張れるか、と考えると、どこまででも、ではない、と思います。

教育長 その頃には多数が日本人でなくなっているかもしれません。そういうところも考えていかなければなりません。

委員 財源の無駄遣いだった、と後から言われないように、急激な人口減少やAI等の発達なども含め、できるだけ見極めて建てないといけません。

■日程第5 その他 2 次回の定例教育委員会の開催について

教育総務課による説明後、次回の定例教育委員会は案のとおり開催することで決定した。

以上をもって 16:00、9月の定例教育委員会を閉じた。

会議録署名

教育長

土屋正人

委員

平田史彦

